

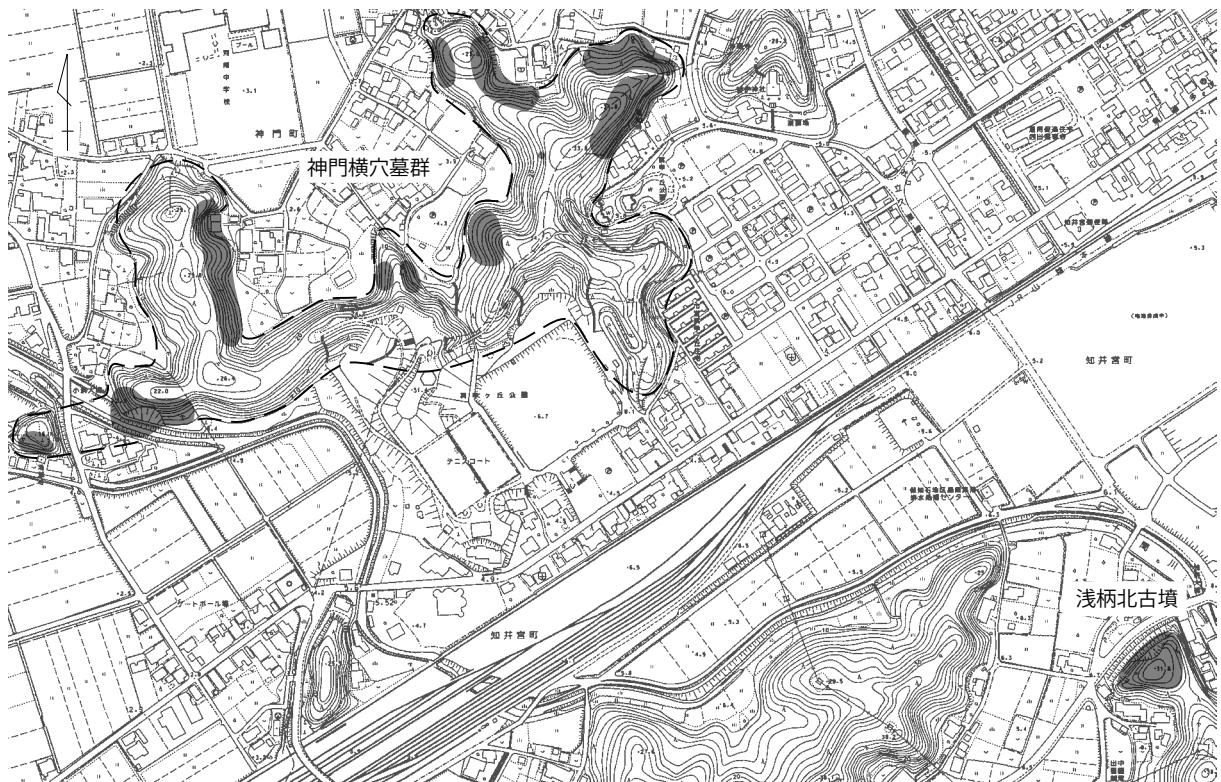
豊富な副葬品を有する古墳で、その立地から被葬者は内海航路を押さえていた首長と想定されている。浅柄Ⅱ古墳は粘土床の下に礫床を有する粘土槨を備えるという、県内では類例を見ない構造を呈するものである。間谷東古墳は木棺の底面に礫床を有する「奥才型木棺」を備えており、この木棺のタイプは北部九州から北近畿にかけて分布していることから、海上交通を中心とした広域な地域間交流が行われていたことが窺える貴重な資料である。

このように単に礫床を備えるだけでなく、粘土槨や「奥才型木棺」などの特異な埋葬施設を備える古墳の出現は神西湖東岸地域の特色といえる。神西湖が「神門水海」の名残であり、入海という当地域の地理的特性を活かした海上交通が出雲平野南西部の首長を中心に一定程度掌握されることにより様々な情報がもたらされ、その発展的過程において出現したものと理解したい。

また、中期になると御崎谷遺跡のすぐ南に位置する出雲平野全域を一望できる標高 100 m を超える丘陵上に出雲部最大級の前方後円墳である北光寺古墳が築かれている。この北光寺古墳に継続する大形の古墳は認められないが、周辺には浜井場 2 号墳や丁之内古墳など中期の小規模古墳が多く点在する地域もある。以上のように特異な古墳の出現は当該期に神西湖東岸の集落が大規模化することと密接に関連するものと考えられ、集落の変遷と併せて検討していく必要がある。

第3節 横穴墓の様相

出雲平野には多数の横穴墓が存在しており、その大半は神戸川左岸の神門横穴墓群、右岸の上塩治横穴墓群の 2 大横穴墓群等に集中している。出雲西部における横穴墓の出現は出雲 4 期の段階と考えられ、現状では出雲 3 期に遡る明瞭な横穴墓は確認されていない。このことから横穴墓の出現は松江市や安来市などの出雲東部より遅れると見られている。出現時期である出雲 4 期の横穴墓の特徴としては平面形態が縦長長方形で天井形態はアーチ形であることが指摘されており、出雲 5 期



第 152 図 神門横穴墓群と浅柄北古墳の位置 (S=1/5000)

にはアーチ形は前段階から継続して存在するものの、家形を呈するものがこの時期に出現していくようである。

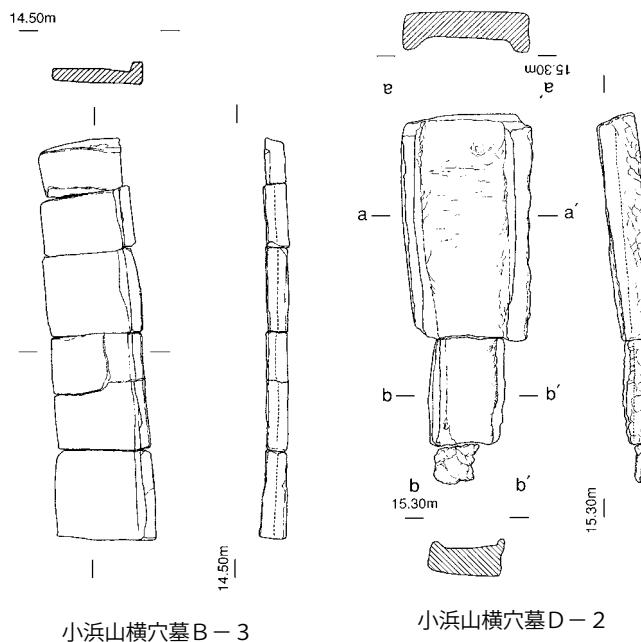
今回の調査では浅柄北古墳から横穴墓が確認され、北側丘陵には大規模な横穴墓群である神門横穴墓群が展開する地域もある。これらの特徴を踏まえながら浅柄北古墳における横穴墓の様相について検討してみたい。

1. 浅柄北横穴墓群の様相

浅柄北古墳では8穴の横穴墓を検出した。第5章で述べたとおり、横穴墓の多くは天井部等が崩壊していたため天井部や平面形態の不明瞭なもの、遺物が皆無で時期の特定が困難なものもあったが、ここでは再度、簡単に整理してみたい。

出土遺物から見た横穴墓の時期については、出雲3期の横穴墓は認められず、出雲4期～5期が認められる。

出雲4期の横穴墓には3号・4号・6号・8号横穴墓の4穴がある。このうち3号・4号横穴墓



からは出雲4期～5期の様相を示す須恵器が出土していることから追葬が行われたことがわかる。また、8号横穴墓は須恵器を伴わず赤彩土師器のみで構成されており、他の横穴墓と様相を異にしていることが注意される。時期についても明確ではないものの、西谷横穴墓群第2支群1号穴出土の土師器と類似していることから出雲4期と判断した。この時期の横穴墓の玄室形態は縦長長方形で基本的には前壁側に袖を有していたと考えられ、床面には排水溝や礫床等の内部施設は認められない。天井形態はすべてアーチ形である。このことは出雲平野の横穴墓と同様の特徴を示している。

出雲5期の横穴墓には5号・7号横穴墓がある。玄室形態は5号横穴墓が縦長長方形、7号横穴墓は隅丸の横長長方形を呈している。天井形態はいずれもアーチ形で、家形のものは認められない。

5号横穴墓のその形態は出雲4期の横穴墓に類似するが、細部では玄室奥壁手前約70cmの位置から奥壁に向かって傾斜がつき、奥壁側では約20cm高くなるという差異が認められる。玄室内部には4体の人骨が遺存していることか

第153図 石床実測図 (S=1/40)

ら、明らかに追葬が行われたと見られ、出土した須恵器は追葬時のものの可能性も考えられる。また、内部施設として4枚の切石で構成された有縁の石床が設置されている。このような石床は小浜山横穴墓群のB-3号、D-2号、E-3号穴でも確認されているが、3基とも同じ形態のものではなくバラエティーに富んでいる。有縁で2~3枚の切石で構成される石床を備えるD-2号、E-3号穴は出雲4期の造墓と見られ、上塩治横穴墓と同じ定型化した石床を備えるB-3号穴は出雲5期と見られている。当横穴墓のものは切石の枚数に違いはあるがE-3号穴のものに類似しており、このことから推測すれば、出雲4期に造墓された可能性が高いと考えられる。

7号横穴墓は隅丸の横長長方形で玄室床面には中軸線から右壁側に沿って排水溝が廻り、左右に屍床を造りだした構造となっている。このような構造は1号横穴墓にも認められ、1号横穴墓は遺物が皆無であったため時期を特定することはできなかったが、この特徴から7号横穴墓と同時期の可能性も考えられようか。

出雲6期の土器が出土したものに2号横穴墓がある。遺物は床面から浮いていることから造墓時期を示すものではなく、流れ込みもしくは追葬時のものと見ることができる。崩落が著しく平面形態や天井形態も不明であることから造墓の時期については特定できない。

出土遺物から判断すれば以上のような造墓時期が推測される。1号・2号横穴墓については出土遺物から明確な時期を押さえられなかつたため、他の要素から再度検討してみたい。この2穴は検出レベルからみれば群の中では最高所に位置している。横穴墓群の中で後出するものとした場合、密集して造墓が行われている状況から想像すると造墓するスペースに限りがあり、最高所という位置に造墓することは不可能に近かったと考えられる。だとすれば、出雲4期には造墓されていたものと考えた方が妥当であるかも知れない。また、直上には後背墳丘の1号墳が存在していることから、内部状況は不明であるものの「盟主的」な横穴墓であったとも推測でき、もしそうであれば、当横穴墓群の中で最初に造墓された可能性も想定できる。

このように浅柄北古墳の横穴墓群はその築造順位については把握することはできなかつたが、造墓は出雲4期~5期までの比較的短期間に行われたと見られ、特に出雲4期の時期に集中的に行われたことがわかる。

2. 浅柄北横穴墓群の特異性

神西湖周辺には神門横穴墓群や神待山横穴墓群、地蔵堂横穴墓群など多数の横穴墓が知られている。これら横穴墓群と当横穴墓群を比較してみても相違はほとんど認められないが、唯一様相を異にしているのは後背墳丘の有無である。当横穴墓群には古墳を含めた3基の後背墳丘が存在している。これらを後背墳丘とした根拠としては以下のとおりである。

- ①墳丘下方に横穴墓が存在していること
- ②3基の墳丘とも墳丘上から須恵器が出土しており、特に甕や横瓶は意図的に破碎された状況であることから、明らかに墳丘上で横穴墓に対する何らかの祭祀儀礼を行ったものと見られること
- ③1号墳を中心とするグループと墳丘2を中心とするグループが認められること

以上のことから3基の墳丘は後背墳丘であると判断した。しかし、後背墳丘は出雲東部の横穴墓には比較的多く認められる事例であるが、出雲西部の横穴墓にはこうした墳丘は認められず、特に神門横穴墓群のような大規模な横穴墓群であっても今のところ後背墳丘は確認されていない。ただし、上塩治横穴墓群では明瞭ではないものの後背墳丘の可能性が窺える事例が存在しており、この

ことからみれば、本来は墳丘を有する横穴墓が存在していても流失等によって確認されなかつたことが多いため知れない。今後、周辺の横穴墓から後背墳丘が確認され調査・研究が進むことが望まれる。

以上のように浅柄北古墳の横穴墓は明らかに墳丘を意識して造墓されており、特に前期古墳の立地を利用して造墓するなど、他の横穴墓群と様相を異にする特異な存在である。これが何に起因するものか明確にし難く今後の課題としたいが、出雲平野での横穴造墓の様相を知る上で貴重な資料といえる。

参考文献

- 出雲市教育委員会『遺跡が語る古代の出雲』1997
- 出雲市教育委員会『浜井場古墳群発掘調査報告書』2005
- 島根県教育委員会『九景川遺跡』2008
- 島根県教育委員会『玉泉寺裏遺跡・浜井場4号墳・間谷東古墳』2008
- 島根県教育委員会『出雲・上塩冶地域を中心とする埋蔵文化財報告書』1980
- 島根県教育委員会『畠ノ前遺跡・菅原I遺跡・クボ山遺跡・菅原II遺跡・菅原III遺跡・廻田V遺跡・保知石遺跡・浅柄II遺跡・柳ノ内I遺跡』2005
- 湖陵町教育委員会『神南地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財報告書』1994
- 西尾克己・野坂俊之「湖陵町の歴史 第1章原始古代の湖陵町」『湖陵町誌』2000
- 出雲市教育委員会『浅柄遺跡』2000
- 出雲市教育委員会『山地古墳発掘調査報告書』1986
- 出雲市教育委員会『丁之内古墳』1981
- 島根県教育庁古代文化センター『大寺1号墳発掘調査報告書』2005
- 島根県教育庁古代文化センター『北光寺古墳発掘調査報告書』2007
- 松本岩雄「墳丘出土の大型土器」『山陰考古学の諸問題』1986
- 出雲市教育委員会『西谷墳墓群』2000
- 加茂町教育委員会『神原神社古墳』2002
- 鹿島町教育委員会『奥才古墳群』1985
- 鹿島町教育委員会『奥才古墳群第8支群』2002
- 島根県教育委員会『松本古墳調査報告書』1963
- 出雲考古学研究会『古代の出雲を考える7 松本古墳群』1991
- 大谷晃二「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11集 1994
- 出雲市教育委員会『小浜山横穴墓群I』1995
- 出雲市教育委員会『地蔵堂横穴墓群発掘調査報告書』1994
- 出雲市教育委員会『西谷横穴墓群第2支群発掘調査報告書』2007
- 大谷晃二・松山智弘「横穴墓の形式とその評価」『地域に根ざして』1999
- 島根県教育委員会『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書IV』1998